

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

### 36. ツルボ (キジカクシ科ツルボ属)

*Barnardia japonica* (Thunb.) Schult. et Schult.f.

2015年8月

日当たりのよい土手や田畑の畦畔などのやや湿り気のあるところにしばしば群生する多年草です。地下部は黒褐色の薄皮に被われた高さ2~3cmの鱗茎を有し、多数の細い根を出します。葉は春に鱗茎上部より数枚出しますが夏には枯れ、再び秋に花茎とともに2枚の葉がでます。根生葉は線形で長さ10~25cm、幅4~8mmで表面は浅くくぼみ、厚くて柔らかい質感です。花は8~9月に高さ20~40cmの花茎上部の総状花序に多数集まって密につけ、淡紅紫色の花被片は長さ3~4mmで6個(外花被片3個、内花被片3個)あり平らに開きます。6本ある雄ずいは花被片とほぼ同長で花糸の下部は広がって扁平で縁に微細な突起があります。分布は北海道、本州、四国、九州、沖縄、台湾、朝鮮、ウズリー、中国です。兵庫県では全県的に生育しており、姫路市においても身近に見られる植物のひとつです。鱗茎は食べられるので戦後の食糧難に非常食として食べられました。ただし、同所的に生育するヒガンバナ科のヒガンバナ (*Lycoris radiata* (L'Hér.) Herb.) やキツネノカミソリ (*Lycoris sanguinea* Maxim. var. *sanguinea*) はよく似た鱗茎ですが有毒で、採取には気を付けなければなりません。



ツルボ (ため池の土手での群生)



ツルボ (河川の土手での群生)



花の拡大